

1

江戸時代末期、アメリカをめざす幕府の船、咸臨丸には、測量の専門家として、小野友五郎ら日本の測量士と、ブルックたちアメリカの航海士も乗船し、それぞれが測量を行っていた。次の文章は、掲示された測量結果に差異を認めたブルックが、日本側の測量の間違いを指摘し、それに友五郎が反論する場面である。これを読んで、

受験番号
算用数字

注意① 解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。

注意② 字数が指定されている設問では、「」や「。」も一まず使いなさい。

①～⑥に答えなさい。

「私は十四歳で、海尉候補生としてアメリカ合衆国海軍に入つて以来ずっと海で働いてきました」
ブルックの言葉を万次郎が訳した。「北太平洋もベーリング海も東シナ海も知っています。そこで私は測量を任されていたのです。あなた方には、そんな経験はない」
友五郎は、平然とこたえた。
「関係ありません」
それを万次郎が英語に訳して伝えると、ブルックは目を丸くした。

「関係ないとはどういうことか。彼はそう尋ねている」
万次郎の言葉に、友五郎は言った。

「あなたの海軍士官として、あるいは航海士としての経験に対しては尊敬の念を抱きます。しかし、それと計算結果は関係ありません。計算は海軍の経験とは関係ないのです」

それに対して、ブルックが言う。
「私の測量に間違いはありません」

「測量そのものに間違いがなくても、計算に間違いがあるかもしれません。ここは、日本とアメリカの^㉑双方が計算をし直してみるべきでしょう」

万次郎がそれを訳すと、アメリカの航海士の一人が噛みつくように何か言った。万次郎がそれを訳すのを、一瞬躊躇した。おそらく、日本人を見下すようなことを言ったのだらうと、友五郎は思った。すると、ブルックがその士官を制止するように腕を横に出した。そして、彼は言った。

「^㉒いいでしょう。そこまで言うのなら、計算し直しましょう」

ブルックは、自分たちが貼った紙をはがして持ち去った。友五郎も日本側の紙をはがした。そして、船室でもう一度計算を始めた。伴たち三人が心配そうに近づいてきたが、友五郎は彼らにはかまわず、一人で計算をした。

伴、松岡、赤松の三人は、船室の出入り口から友五郎の様子を見つめている。やがて、友五郎は顔を上げた。

再計算の結果に満足していた。やり直しても、同じ結果だった。友五郎は戸口の三人に言った。

「やはり、我々の計算は間違っていないませんでした」
伴がほっとした顔で言った。

「^㉓小野さんがそう言われるのなら安心だ」
赤松が言う。

「じゃあ、もう一度紙を貼りに行きましょう」
友五郎たちは、元の場所に戻り、先ほどと同様に紙を掲示した。ブルックたちは、なかなかやってこなかった。

伴が言った。
「アメリカ人たちは何をやっているんだ」

松岡が言う。
「すぐに来られない理由があるということでしょう」
伴が尋ねる。

「その理由って何だ？」
「計算が間違っていたことに気づいたのでしよう。でも、それを認めたくはない。それで逡巡しているんでしよう」
「なるほどな……」

そこにアメリカ人一行がやってきた。先頭に立つのはブルックだ。万次郎もいっしょだ。
友五郎は言った。

「再計算をしましたが、結果はいっしょでした」
万次郎がそれを訳すと、ブルックがこたえた。それをまた万次郎が訳す。

「こちらの誤算でした。あなたが言ったことが正しかった。あなたが言うとおりに、再計算してみてもよかった」
^㉔「なんだ、あっさりしたものだな。」

友五郎はそう思った。彼らには海軍士官としての^㉕誇りがあるから、おいそれと自分の過ちを認めないのではないかと思っていたのだ。

さらにブルックの言葉が続いた。

「^㉖あなたの自信と信念に、私は感服しました。私は、ますますあなたを信頼するでしょう」

日本人はあまり、他人に直接こういうことは言わない。それで、友五郎はすっかり面食らってしまった。

出典 今野敏『天を測る』

(注) 万次郎：咸臨丸に乗船している通訳。

伴、松岡、赤松：いずれも友五郎の後輩で測量士。逡巡：ためらうこと。

① ——— の部分㉑・㉒の漢字の読みを書きなさい。

② 「^㉓いいでしょう。そこまで言うのなら、計算し直しましょう」とあるが、このときの「ブルック」の心情を説明したものと最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア どこかで妥協点を見つけないと、アメリカ側と日本側とで大きな騒動に発展するのではないかと恐れている。
イ 自分たちが計算し直すことに意味はないが、それで友五郎の気が済むのならつきあってやろうと思っている。
ウ 友五郎がそれほど強く言うのであれば、自分たちの計算が間違っていたのかもかもしれないと不安になっている。
エ アメリカ側の計算が正しいと言っても引き下がろうとしない友五郎のかたくなな態度にとまどいを感じている。

③ 「^㉔小野さんがそう言われるのなら安心だ」とあるが、「絶対に間違いないと保証できるもの」という意味のことわざになるように、次の^㉗にひらがな四字を入れて完成させなさい。
^㉗ 付き

④ 「^㉕なんだ、あっさりしたものだな」とあるが、このときの「友五郎」の気持ちを、「過ち」ということばを使って、三十字以内で書きなさい。

⑤ 「^㉖あなたの自信と信念に、私は感服しました」とあるが、ブルックは友五郎のどのような姿勢に感服したと考えられますか。次の文の^㉘X、^㉙Yに入れるのに適当なことばを、^㉚Xは文章中から四字で抜き出して書き、^㉛Yは「経験」ということばを使って、二十五字以内で書きなさい。
^㉘X を抱くほどの相手に対してもひるむことなく、^㉙Y を要求しつづけるような、自身の考えを貫く姿勢。

⑥ この文章の表現の特徴について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア 「噛みつくように何か言った」という表現は、アメリカ側が間違っていると感情的に主張する友五郎に、アメリカ兵も抗議する一触即発の様子を印象づけている。
イ 「一瞬躊躇した」という表現には、士官の俗っぽい英語が聞き取れず、どう訳してよいのかわからないため、ブルックの反応を待つ万次郎の計算高さが表れている。
ウ 「ほっとした顔で言った」という表現は、伴が自分たちの計算結果に絶対の自信を持っておらず、内心はらはらしながら友五郎の様子を見つめていたことを暗示している。
エ 「すっかり面食らってしまった」という表現には、自分たちの間違いをなかつたことにするために相手を称賛するアメリカ人を不思議に思う友五郎の気持ちが表れている。

令和五年度 岡山学芸館高等学校 選抜 1期入試【二月二十七日】 問題（国語）

2

次の文章は、宇宙物理学者、池内了いけうち 了が書いた文章である。これを読んで、①～⑥に答えなさい。

② 私たち現代の人間と同じ種のホモサピエンスが地上に現れたのは、約二十万年前です。この二十万年前から現代までに、人類は言葉を多様にし、豊かな表現を可能にしてきました。

日本はこんなに小さい国⑥なのに、こんなに多様な方言があるということは非常に不思議ですね。おそらく、それは江戸時代の地方分権が徹底させたのではないのでしょうか。そういう政治とからんだ言語の歴史もあつたと思われます。現代のようにSNSとかLINEとかで非常に断片的な言葉が使われている時代というのは、旧来の言葉が破壊されていく時代ではないのかと心配しています。ほんの断片的な言葉のやりとりだけで、哲学は語れるのか、文学を多様に彩れるのか、ということがすごく気に掛かるからです。日本という国には、言葉の豊かさが、色んな表現の仕方があります。それを子供達は小さい頃から学んでいくわけですね。これだけ多様な言葉を何ともなしに区別しながら、漢字、カタカナ、ひらがな混じり、時にはアルファベットも入った文章を作っていくことができるわけです。これはすごい能力で素晴らしいことであつて、それを失わせないということが必要ではないかと思ひます。果たして、今後SNSによつて新たな能力が開発され、新たな言葉の世界を広げ、言葉の世界の豊かさをみたくいなものも見出していく、そんなことがあるのでしょうか？

③ 人間の成長というのは、言葉の世界の拡大であるというふうに見えるのではないのでしょうか。人間は二十万年という時間をかけて言葉を豊かにしてきました。現代の私たちは、①オサナイ頃、高校あるいは大学など、育つていく時期に応じて人としての成長段階を辿りながら、時間をかけて進化するという道を歩んでいます。言い換えると、ホモサピエンス二十万年の言葉の拡大の歴史を、私たちは十年なり十五年なりの学習で追体験して言葉を豊かにしていると言えそうです。そういう風な見方ができるのではないかと思ひます。

例えば、小学校に入つて一年生から成長するに従い、会話の意味の深さなどを学んでいくのですが、同時に物の名前を覚え、その性質を覚える作業も並行しています。それから、少しずつ抽象性がある数量、空間、時間の表現を知っていきます。やがて中学になると、今度は悲しみとか喜びとか、そうした抽象概念が心の中で生まれます。あるいは、抽象的な感覚や倫理、愛とか神とか正義とか平等とか平和とか利己とかの概念です。さらには、利他的というようなより高度な倫理感の基本を成すような感情表現を経験するようになります。高校の段階になつてくると、言葉を結び合わせることによる思想や哲学、そして諸学の理解という段階に進みます。様々な状況の中で色々な言葉を使いながら、その言葉で表せるものを具体的に、全然違うものであるう言葉と結び合わせて、共通のある種のまとまった考え方や主張を具体的に表現し把握していきます。こういうふうには、年齢とともに二十万年の人類の言葉の歴史を追体験していくのです。

高校時代は言葉を使つて哲学とか宗教とか歴史とか社会など、あらゆる学問の基本的概念を獲得する世代・段階であると言えるのでしょうか。従つて、より広い世界を認識できるような科目④「コウセイ」になつています。もう一つ大事なことは、言葉を使うことによつて色々な学問の関連を知る時代でもあるということです。要するに各学問が独立して別個にあるのではなく、それらを結び合わせるによつて互いに関連しあつていくことがわかつてくるということです。それがわかつてくるからこそ、それぞれの大事さみたいなものも理解できるようになるのです。それを通じて、今度は自分で感情とか論理、あるいは概念といったものを表現する術を獲得する、そういう段階であるのです。

ここで、国語が全科目の架け橋となるということ、つまり言葉を主体にした科目としての国語が、読み、書き、理解し、学習し、表現し、主張し、納得し、という全科目に共通する技量の基礎になるのは必然です。それぞれの言葉を通じて、その中身を表現したり、主張したりするのですから。それを自己と他者の関係、つまり他の

人との間でやりとりすることによつて深めていくということこそが、生きる力ではないかというふう思っています。

十八歳選挙権が得られることになりました。つまり、日本では十八歳で社会的に一人前として位置づけられ、社会に送り出されるわけです。そういうときに、スキルとしての言葉の使い方と共に、言葉の持つている意味付けや、色々なものをつないでいく機能があるのだということを引きちんと体得していくことが重要です。そのために、高校時代は社会人として基本的に求められる言語技量をマスターする段階と言えるでしょう。その場合、スキルとしての技量の獲得のみならず人間としての相互理解のための、言葉のより深い把握が不可欠です。

出典 池内了『科学と社会へ望むこと』

（注）ホモサピエンス：現生人類の種の学名。

江戸時代の地方分権：地方の大名に独立した権力を与えるもの。

SNS：インターネットを介して人と人をつなぐサービス。

① ———の部分④・⑥を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「①私たち現代の人間」とあるが、筆者が現代の人間に対して危惧していることとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 日本に政治とからんだ言語の歴史があつたことや、今でも多様な方言が残っていることを人々が忘れてしまうこと。

イ 断片的な言葉のやりとりで終始することで、日本にある言葉の豊かさや色々な表現の仕方を失つていくこと。

ウ 長い年月をかけて築かれた日本の言葉の世界を、子供達が学び身に付ける機会が失われてしまったこと。

エ 人々が、新たな世界を広げ言葉の世界を豊かにするために、LINEやSNSをうまく利用できていないこと。

③ 「⑥な」と文法的に同じものは、ア～エの「な」のうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 明日は、雨なのか。 イ 楽しそうな笑い声だ。

ウ おかしな話を聞いた。 エ 新鮮な魚を食べた。

④ 「④人間の成長というのは、言葉の世界の拡大である」とあるが、どういうことか。それについて説明した次の文の□に入るのに適当なことをばを、「年齢」「豊か」ということをばを使って、三十五字以内で書きなさい。

人間は、二十万年の□のだということ。

⑤ 筆者が言葉を大切に考える理由について説明した次の文の□、□、□に入るのに適当なことをばを、文章中から□は十四字、□、□は八字で抜き出して書きなさい。

言葉の意味付けや、言葉には□があることを理解し、言葉を通じて□の中で自分を高めていくことこそが、生きる力であると考えているから。

⑥ この文章で述べられた「高校時代」について説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 高校時代は、様々な状況の中で色々な言葉を使いながらスキルとしての言葉の使い方を身につけ、社会人として基本的に求められる対人能力を身につける段階だといえる。

イ 高校時代は、哲学・宗教・歴史・社会等の学問の基本的概念を獲得していくため、中学の間に学んだ、悲しみや喜び等の抽象概念が実感として理解できるようになる。

ウ 高校時代は、各学問が独立して別個にあるのではなく互いに関連し合つていること、それぞれの学問が、いずれも大事なものであることを、国語の学習で学ぶ必要がある。

エ 高校時代は、諸学の関連性、重要性の理解を通じて、自分から、感情、論理、概念などを具体的に表現する術を獲得する段階であり、その際、国語で培つた技量が重要となる。

令和五年度 岡山学芸館高等学校 選抜一期入試【二月二十七日】 問題（国語）

3

次の文章は、日本文学研究者、中西進が、『万葉集』に収められている和歌について書いた解説文である。

雁がねの初声聞きて咲き出たる屋前の秋萩見に来わが背子
 (巻十、二二七六)

「雁がね」は雁そのものです。最初に飛んできた雁の声、それを聞くとき自分の家に植えてある萩、その花が咲き出したというのです。ですから、どうぞ、あなた見にきてくださいという一首です。萩の花はなぜ咲いたか。雁の声を聞いたからだというのです。萩は耳をもっているという歌です。そんなことはない、これは修辞だということに今までは言ってきました。幸せなことに、そうではないことを自然科学が説明してくれています。

例えば、植物はモーツアルトを聞かせるとみごとに花を咲かすといえます。ハサミを持つて近づくとギユツと細胞が縮むという実験もあります。つまり、目に見えない、言葉を発しない植物でも、こういう生理をもっている。そういうわれわれと違った、音のデンベルのなかでちゃんと音が聞こえている。それをいち早く発見したのが万葉人です。

これは宇宙がひとつの生命体としてつながっているということではないでしょうか。レトリックでも何でもないので。

宮本輝の作品に『螢川』という小説があります。『螢川』は、四月末ごろに立山に雪が降り、そうすると夏、神通川の分流に螢がたくさん発生するという話です。言ってみれば雪が螢に化けるといいう話です。芭蕉には、吉野の桜が石山の螢になったという句があります。こんなのは文学的な嘘だとお考えかもしれませんが、考えてみれば、立山から流れてくる水、これは雪消水を常にたたえて流れ続けているのです。そうしますと、雪がたくさん降ることによって起こる川の状態、その変化が当然あるのです。それが螢の発生に好都合だということは当然あり得ることです。非常に自然科学的なことです。だから、それを、文学の中の幻想だと言うことはできない。

これも、ちょうど雁が飛んでくる、その天候の判断と、恐らく萩が花を咲かせるという状況の判断が一致するのでしょう。カジカだつて、一定の湿度と明度とがないと鳴きません。すべて同じです。われわれもそうです。雨が降るとリウマチがうずくとか言います。天候と健康というのがもう一体になっているのです。そういうものが宇宙生命観です。

君が行く海辺の宿に霧立たばあが立ち嘆く息と知りませ

(巻十五、三五八〇)

これは新羅へ使いにいった夫を送った妻の歌です。遣新羅使の夫が船に乗って瀬戸内海をいきます。そして、夜港にとまりをします。そのとまりの空に夜霧が立つでしょう。そのときは、夜霧こそわたしが思わず長く息をついてしまう、そういう嘆きの息とご承知くださいというのです。つまり、 というのです。

われわれとしては、いいかげんな表現上の技巧ではないかと思ったりします。しかし、そうではなくて、非常に密接に関係があるという証拠をいるんなどころでわれわれは見せつけられます。

早い話、この「霧」という字は雨かんむりがあります。この雨かんむりの下に「云う」という字を書きますと「雲」という字になります。要するに、息が天上に上ったものが雲だという中国人の考えです。だから万葉人だけが変なことを考えているわけではありません。せん。

あるいは、雨になると、「だれだ、心がけの悪いやつは。おまえがいるから雨になったんだ」などと言います。要するに、心がけの悪い男がひっそり隠れていて、それが変な呼吸をする。そうしますとそれが空に上りまして、迷惑な雨となって降ってくるという、そういう話ですからわれわれも日常生活的に万葉的な世界観を口にしなから生活しています。それは冗談だと思っっているのでしょうかけれども、実はそうではなくて、やはり、われわれの命は深い深い自然の一部として営まれているのだということです。これが非常

に大事な認識ではないでしょうか。

ターミナルケアの中で俳句をつくるのはどうですか、ということとを提言したことがあります。俳句というのは、宇宙生命を感得するわざです。ですから歳時記の中に自然がいっぱいあります。天地自然の変化、現象に対してわれわれはどう気持ちを抱くかということ。俳句をつくることで、ちっぽけなひとつの個人の命にすぎないものが宇宙化するのです。

出典 中西進『うたう天皇』

(注) 修辞…ことばをうまく使って、美しく巧みに表現すること(技術)。

デンベル…音の大きさを表す単位。 レトリック…修辞法。

宮本輝…作家。一九四七。 立山…富山県・岐阜県に位置する群峰。

神通川…立山から富山湾に流れ込む河。 カジカ…ここではカエルのこと。

リウマチ…腕や手首などの関節に炎症が起きる病気。

ターミナルケア…終末医療。人生の終末期に施されるケア。

① に入ることばとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- ア 旅先に残した妻を案じて夫が嘆きますと、その息が留守宅の夜霧になる
- イ 旅先の夫を案じて妻が嘆きますと、その息が留守宅の夜霧になる
- ウ 留守先の妻を案じて夫が嘆きますと、その息が旅先の港の夜霧になる
- エ 留守宅に残された妻が嘆きますと、その息が旅先の港の夜霧になる

② 「万葉的な世界観」について、次の(1)、(2)に答えなさい。

- (1) 「万葉的な世界観」に対する筆者の考えを説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
 - ア 自然科学の視点で見るとありえないことが多いが、われわれに美しい幻想的な光景を見せてくれるものである。
 - イ 修辞には違いないが、われわれの命が自然の一部であることを再認識させてくれる意義深いものでもある。
 - ウ 文学的な幻想とされがちだが、自然科学的に正しい現象もなかにはあり、いいかげんな表現技巧ではない。
 - エ たしかに不可解ではあるが、われわれも日常生活のなかで口にしており万葉人だけが特殊なわけではない。
- (2) 「万葉的な世界観」を説明する事例として適当でないのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
 - ア 植物にモーツアルトを聞かせると花が咲いたり、ハサミを持つて近づくと細胞が縮んだりすること。
 - イ 立山から流れてくる水は、常に雪消水をたたえて流れ続けていること。
 - ウ 雨が降るとリウマチがうずく人がいること。
 - エ 心がけの悪い人がいると、雨になること。
- ③ 中学三年生の麻衣さんは、この文章を読んで、次のような感想文を書きました。X Y に入れるのに適当なことばを、X は十字以上、十五字以内で書き、Y は文章中から二十六字で抜き出し、最初の五字を書きなさい。

一つ目の和歌にある、「萩の花は耳をもっている。萩の花は、X」という発想が素晴らしいなと思いました。そして、そのような万葉人の感覚は、われわれの中にも息づいており、感得するには俳句をつくるのがよいという考えにも興味を引かれました。句作によってY というのです。自然と向き合いながら俳句をつくることで、何か大きなものにつつまれる安堵感があるのかもしれない、そんなふう に思いました。

受験番号
算用数字

4 四人の中学生が、食品ロスをテーマとするグループ学習で、【資料 I】～【資料 III】を読んで、①～④に答えなさい。

【四人の中学生の話し合い】

康平 今日、食品ロスについて話し合うよ。食品ロスとはまだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことだよ。

由香 【資料 I】は、2017年と2022年に私たちの中学校で行われたアンケート結果をまとめたもので、食材の過剰除去は、野菜のへたと一緒に実の部分まで大きく切り落としてしまうなどの行為を指しているよ。この【資料 I】を見ると、

真紀 X ことがわかるよ。そこから考えると、各家庭の食品ロスへの取り組みはまだ改善の余地がありそうだね。

伸一 うん。食品の買い過ぎや料理の作り過ぎにも気を付けな

真紀 そうだね。環境を守ることや日本の食料自給率が低いことも問題だし、食品ロスについて消費者ももっと勉強していかないといけないね。続いて【資料 II】を見て。事業者も食品ロス対策をいろいろ行っているよ。

伸一 納品期限の見直してあるけど、これって何のため？

真紀 今までは、賞味期間の三分の一以内で食品を小売店に納品しなければならぬルールがあって、それを過ぎると賞味期間はまだ十分にあっても店に納品できずに廃棄していた食品があったんだって。その納品期限を延長することで、納品前に廃棄されてしまう食品を減らすことができるんだ。

康平 せっかく作られた商品が売れる前に捨てられるなんてことがあるんだ。欠陥商品でもないのに、もったいなさすぎるね。ほんとはね。このドギーバッグは、知ってる。飲食店で食べ残したものを持ち帰る容器のことだよ。この前行ったレストランに置いてあった。

康平 僕も見たとある。注文時に「ごはんを少なめにできる店もあるし、飲食店も食品ロス対策、頑張っているみたいだね。

真紀 うん。この規格外品・廃棄部分の商品化って何だろう。

伸一 曲がっているきゅうりや割れたおせんべい、食パンの耳を使った商品などがそれにあたるんじゃないかな。どのよう

真紀 な「訳あり」商品なのか、説明書きを入れることで、消費者の理解を得て、商品化に成功しているみたいだよ。

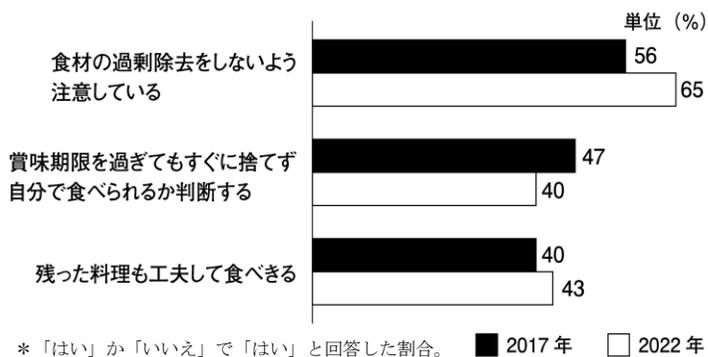
由香 なるほど。いくら農家や企業がもったいないと思っても、売れなければ成り立たないもんね。

真紀 事業者と私達消費者と一緒に頑張っていかなければいけない課題なんだね。

康平 そうだね。僕たちに出来る対策を考えてグループの提案にするのはどう？ 【資料 III】を見て。食品ロスがうまれる場面を大きく五つに分けてみたよ。僕は、【資料 III】の中では

Y に注目してみたいと思う。ここでは、Z

家庭での取り組み状況



【資料 II】 事業者の取り組み

- 〈販売〉 消費期限間近の商品販売の工夫
納品期限の見直し
- 〈飲食店〉 小盛り・小分けの対応・ドギーバッグの活用
肥料などへの再生利用
- 〈製造〉 規格外品・廃棄部分の商品化
表示ラベルの工夫

【資料 III】

食品ロスがうまれる場面

- ア 飲食店などの外食産業
- イ 一般家庭
- ウ スーパーや小売店
- エ 農業、水産業、製造業などの食品生産過程
- オ 学校や病院などの給食

条件

- 1 二文に分けて書き、一文目に、Yでは、どのようなものが食品ロスになるかを書くこと。
- 2 二文目に、その食品ロスを減らすために私たちにできることを具体的に書くこと。

- ① 「過剰」とあるが、このときの「過」と同じ意味で「過」が使われている熟語は、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア 通過 イ 過去 ウ 過信 エ 過失
- ② 由香さんの意見が論理的なものとなるために、X に入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
ア この五年間で余った料理も捨てずに食べようという意識が高まるとともに、賞味期限を気にしない傾向も高まっている
イ この五年間で食品の過剰除去への意識は高まっているが、残った料理を工夫して食べきることへの意識は低下している
ウ この五年間で食品の過剰除去に注意する人より、賞味期限切れの食品を自分で判断して食べるの方が増え幅は大きい
エ この五年間で過剰除去への意識は高まったが、残った料理への意識は微増、賞味期限切れ食品への意識は低下している
- ③ 話し合いにおける四人の発言の特徴について説明したものとして適当なのは、ア～オのうちではどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。
ア 康平は、発言に対する疑問点を示したり、結論へ向けての提案をしたりして話し合いの司会的役割を果たしている。
イ 由香は、資料の内容を説明したうえで、この資料から何が読み取れるかを他の三人に尋ね、話し合いを活発にしている。
ウ 真紀は、示された資料について質問したり、話し合いの内容を短くまとめたりして、話し合いを前に進めている。
エ 伸一は、テーマについて詳しい説明を加えたり、実例を示したりすることでグループの全体の理解を深めている。
オ 由香は、伸一の発言に対してそのようなことをする理由を補足し、話し合いをまとめる発言へとつないでいる。
- ④ 康平さんの発言の Y、Z に入れるのに適当な内容を、Y はあなたが関心のある項目を【資料 III】ア～オのうちから一つ選んで答え、Z は条件に従って六十文字以上八十文字以内で書きなさい。